〔古事記傳十八〕旦は都登米氏と訓べし、凡て夜有し事を云て、其明旦のことを、都登米氏とは云なり、

〔伊勢物語下〕昔おほやけおぼして、○中略在原なりける男の、まだいとわかゝりけるを、此女あひしりたりけり、○中略つとめて、とのもづかさの見るに、くつは取て、おくになげ入てのぼりぬ、

〔伊勢物語新釋四〕つとめては、朝とくの意にはあれども、おほくはよべの事よりかけていふやうの所にいふ詞也、こゝもよべは女の里にゆきてねて朝とく也、

〔源氏物語夕顔四〕つとめてすこしねすぐし給て、日さし出る程にいでたまふ、

〔倭訓栞中編安〕あくるころほひ　黎明遲明などをよめり

〔書言字考節用集二時候〕朏明淮南子、將明曰朏明、　邈同旦

〔源氏物語四十五橋姫〕明がたちかくなりぬらんと思ふ程に、ありし去のゝめおもひ出られて、○下略

〔源氏物語夕顔四〕いざよふ月にゆくりなくあくがれんことを、女はおもひやすらひ、とかくのたまふ程、にはかに雲がくれて、あけ行空いとおかし、

〔萬葉集相聞四〕更大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌

夜之穂杼呂、吾出而來者、吾妹子之、念有四九四、面影二三湯、

〔萬葉集抄六〕よのほどろとは、よのひかると云也、夜のあくるを云也、去のゝめのほがら〳〵とあけゆけばなど云も、ひかりあくる心也、

〔下學集上時節〕雞鳴丑時八　平旦寅時七　日出卯時六

〔增補下學集上時節一〕遲明朝早

〔和爾雅二歳時〕曉旦之類

五曉、爽旦、黎明天未明之間、黎旦天將曉也、爽曙東方明也、平明、旦明平旦也、平曉、雞晨、昧爽欲明而未明之時、昧旦、胷爽未曉曰胷爽、響晨詩、向曉、五曉五更將曉也、李詩、夜々達曉、昏昕初曉